

ひょうごの福祉

認め合い ともにつながり 支え合う みんなでつくる ひょうごの福祉

2017

5

No.795

P2 特集

福祉の職場の働きがい
～イメージギャップを乗り越えよう～

P6 「ストップ・ザ・無縁社会」広がれ! 全県キャンペーン

P7 私の物語
本業を生かし 世帯の更生を見守って38年
民生委員・児童委員
亀田 龍昇さん(播磨町)

P8 みんなでつくるひょうごの福祉
「ふだんの くらしの しあわせ」を支える
～ほっとかへんネット丹波の取り組み～

P9 福祉トピックス
地域福祉ホットニュース

P10 ひょうごの福祉NOW

P12 インフォメーション

5月5～11日は
「児童福祉週間」だよ!



この機関紙は赤い羽根共同募金配分金により発行しています。

宍粟市

原不動滝



福祉の職場の働きがい ～イメージギャップを乗り越えよう～

介護・障害・保育サービスの現場で共通する課題として深刻なのが人材確保である。その要因はさまざま考えられるが、大きな要因の一つとして「3K(きつい・きたない・きけん)」という偏った福祉職場のイメージの浸透が挙げられる。

しかし、実際の福祉職場では福祉の仕事は働きやすい職場として、近年、「7K」と評されることもある。

今回の特集では、介護・障害・保育サービスが充実するための基盤である福祉の職場の“働きがい”を切り口に、現状と課題・今後の展望を考えてみたい。



福祉職場の人材不足 による生活への影響

わが国では、少子高齢化の進行により、2025年に3人に1人が65歳以上になる超高齢社会を迎える。そのような中、介護や保育サービスを支える人材不足が深刻な問題となっている。

国の推計によると、団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となる2025年に、介護分野では要介護・要支援者を支える人材が250万人も必要になり、37万7千人が不足すると予測している。一方、介護福祉士を養成する専門学校や大学などでは、学生が集まらないなど、若い世代の人材確保が喫緊の課題となっている。

また、保育分野では待機児童の解消に向けて、新規の保育所などの開設が進められているが、保育士などの人材が確保できず、子どもの受け入れに支障が出ているところもある。

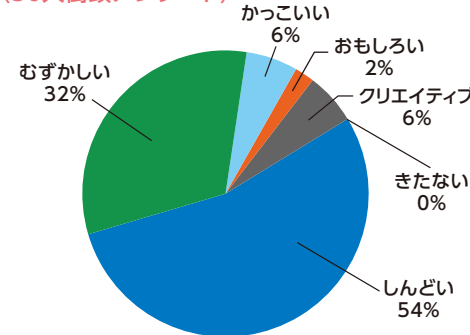
このように、介護や保育の人材が十分に確保できなければ、サービス

の質の維持はもとより、サービスの提供自体が困難になる場合もある。つまり、福祉職場での人材不足は、我々の生活そのものに大きな影響を及ぼす問題といえる。

街頭アンケート 「福祉の仕事のイメージ」

兵庫県福祉人材センターでは、今年1月に三ノ宮駅前で、「福祉の仕事ってどんなイメージ？」とアンケート調査を実施した。結果、80%以上の方が福祉の仕事を「しんどい」「むずかしい」仕事だと思っていると回答した(図1)。

図1 福祉の仕事ってどんなイメージ?
(50人街頭アンケート)



魅力・やりがいにあふれる 福祉の仕事「7K」

職員の生の声

実際に働いている職員は、仕事に対してどのような印象を抱いているのだろうか。

県社協では、平成27年度から福祉の職場で働く職員への取材を基に、仕事の様子や職員の生の声を知ってもらおうと「プロモーションビデオ」の制作に取り組んでいる。ビデオでは、高齢者施設と障害者施設で働く職員に聞いた福祉の仕事の魅力などをピックアップして紹介している。

高齢者施設



障害者施設



写真にもあるように、福祉の仕事に携わる人たちは、利用者との日々の関わりの中から、利用者の自立や変化、そして自身の成長を実感しながら、やりがいと使命感・プライドを持って仕事と向き合っていることが分かる。介護労働安定センターが全国的に実施した「介護労働者の就業実態と就業意識調査」(平成27年度)では、仕事を選んだ理由で「働きがいのある仕事だと思ったから」が52.2%にも上る。従来の「3K」のイメージとは異なった意見が多く、実際に現場で働いている人たちの声を発信していくことがいっそう重要と言える。

福祉職場は「7K」

皆さんは、「7K」という言葉をご存知だろうか。福祉の仕事を通じて体験する「希望」「期待」「感謝」「感動」「感激」「可能性」「研究開発」の頭文字を取ったもので、福祉の仕事の魅力を前向きに発信しようと思われている言葉だ(表1)。「3K」から「7K」へ。今、福祉の仕事のイメージの転換が求められている。



表1 「介護の虹の7K」
(公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会 小林光俊会長が提唱)

1	「希望」	人生に「希望」を持ってもらえる仕事
2	「期待」	みんなの「期待」に応える仕事
3	「感謝」	みんなに「感謝」をされる仕事
4	「感動」	挑戦した成果がカタチとなり、「感動」を体験できる仕事
5	「感激」	みんなに「感激」される仕事
6	「可能性」	まだまだ「可能性」が秘められた仕事
7	「研究開発」	さらに「研究開発」が進んでいく分野の仕事

**県社協が取り組む
福祉の仕事のイメージアップ**

県社協では、多くの人が福祉の仕事に興味を持ち、就業先としての選択肢を増やせるよう、福祉職場のイメージアップに向けたさまざまな取り組みを行っている。

1つ目は、福祉の職場を実際に訪し、現場の雰囲気や特色、職員の働いている様子を知ってもらう「福祉体験学習事業」である。高校生以上で福

続き、各関係機関との連携・協働のもと、福祉業界全体のイメージアップに取り組んでいく。

そして、少しでも多くの方々が、福祉の仕事への興味や関心を持ち、理解を深められるよう、福祉の仕事のやりがいや魅力を伝え続けるとともに、福祉の就職総合フェアや福祉の就職説明会の開催、就職に関する相談支援など、福祉職場への就職を希望する方々への支援の充実にも力を入れていく。これらの取り組みを通じて、「福祉の仕事ってどんな仕事をするのかな?」「興味はあるけど資格がなくても大丈夫かな?」と不安に思う人たちにも実際の職場の雰囲気や特色を広く知ってもらい、福祉の職場で活躍してもらえよう支援を続けていきたい。

また、福祉人材の確保を着実に進めていくため、県や国に対する政策提言等にも取り組んでいく必要がある。福祉の職場や社会福祉法人においても、「社会福祉法人連絡協議会」の取り組み等を通じて、積極的に「福祉の仕事」の魅力をアピールしていくことを期待したい。

「福祉のお仕事」ホームページリニューアル

全国の福祉の求人がたくさん登録されており、いつでもお仕事を探すことができます。

- 「求職者マイページ」に登録すると、インターネットから求職票の登録が可能になりました。
 - 新着求人や福祉の就職総合フェア等のお知らせもチェックしやすくなりました。
- ぜひ、「求職者マイページ」に登録し、お仕事探しにお役立てください!



URL <http://www.fukushi-work.jp/>

兵庫県福祉人材センター公式 facebook

福祉のお仕事をお探しの方に、就職フェアの情報や資格についてなど、福祉のお仕事に関する情報を発信するために、facebookを開設しました。

ぜひ、「フォロー」をして最新の情報をチェックしてください!



兵庫県福祉人材センター
Facebook はじめました



平成29年度 福祉の就職総合フェア・就職説明会の開催

福祉関係事業所と求職者の面談の場、福祉の仕事への理解を促す機会を設けることを目的として、下記の日程で「福祉の就職総合フェア」ならびに「福祉の就職説明会」を開催します。

※「福祉の就職総合フェア」では、福祉の仕事の魅力が聞ける「福祉の就職ガイダンス」を同時開催します。

名称	開催日	会場
第1回 福祉の就職総合フェア in HYOGO	平成29年6月24日(土)	神戸国際展示場3号館
福祉の就職説明会(姫路会場)	平成29年8月 8日(火)	姫路市商工会議所2階
福祉の就職説明会(明石会場)	平成29年8月29日(火)~30日(水)	あかし市民広場
福祉の就職説明会(尼崎会場)	平成29年9月30日(土)	尼崎市中小企業センター1階ホール
第2回 福祉の就職総合フェア in HYOGO	平成30年3月10日(土)	神戸国際展示場2号館

※福祉の仕事に関する求職者や事業所を応援しています!

【お問い合わせ先】兵庫県福祉人材センター

TEL 078-271-3881 FAX 078-271-3882 E-mail jinzai@hyogo-wel.or.jp

URL <http://www.hyogo-wel.or.jp/work/index.html>

祉の仕事に関心がある方ならごなたでも、県内の登録施設で1施設当たり最大5日間の体験をすることができ。4月1日時点で500カ所を越える施設・事業所が登録しており、今後も増える予定である。

求職者にとっては、求人票に掲載される給与や労働条件面だけでなく、職場の雰囲気や理解した上で応募するかどうか判断する貴重な機会にもなっている。

2つ目は、「福祉のしごと職場見学ツアー」である。1日に2カ所の施設をバスで巡り、福祉の職場を見学するだけでなく、職員との意見交換や利用者との交流なども体験できる。平成29年度は計10回の開催を予定している。

3つ目は、先ほど紹介した「プロモーションビデオの制作・広報」である。制作したビデオは、公式YouTubeに掲載し、誰でも気軽にスマートフォンやタブレット、パソコンなどで視聴できる。今後取材先を広げ、福祉職場やそこで働く職員を取り上げながら、若い世代にも福祉の仕事を身近に感じてもらう環境をつくっていく。



さらなる福祉人材の確保に向けて

言うまでもなく、福祉の仕事は人が人にサービスを行う対人援助であり、質の高い人材の確保は良質な福祉サービスの提供に欠かせない。無縁社会や社会的孤立が課題となる中、プロモーションビデオに登場したケアスタッフの「お年寄りに感謝されるか、そういうところはやっぱり魅力的ですね」という語りや、前向きな「7K」の言葉が象徴するように、福祉の職場は人の生活を支えるとともに、「つながり」を再構築できる魅力ある職場といえる。

さらに、日々の仕事に関連して「介護福祉士」や「社会福祉士」などの資格取得を通じてキャリアアップすることもできるし、職場のマネジメントや管理運営に携わるなど、将来にわたってやりがいと使命感、プライドを持って仕事に従事することができる。

県社協では、2020年計画の重点プロジェクトの一つとして「福祉への理解と関心を広めよう」を掲げ、福祉専門職だけでなく、地域福祉の人材養成を含めた取り組みを進めていくこととしている。今後も引き





このコーナーでは、地域福祉のキーパーソンや実践者・当事者らのエピソード・想いを紹介していきます。

本業を生かし世帯の更生を見守って38年

民生委員・児童委員
かめだ りゅうしやう
亀田 龍昇さん (播磨町)

Personal History

昭和55年 民生委員・児童委員になる
平成7年 播磨町民生委員児童委員協議会会長
平成16年 兵庫県民生委員児童委員連合会副会長
平成28年 同会長に就任 現職



二度とない人生だから

私のトピック

現在、約250世帯を担当しています。檀家と重なっており、本業と民生委員活動は重なる点が多いと思います。住職として住民の悩みや相談を聴く機会も多いですね。民生委員の平均年齢は、60歳く

「民生委員・児童委員になって」

住職だった義父からの引き継ぎでした。当時は36歳で、話を持ち掛けられたとき、兄に相談したら、「断る理由がなければ、引き受けたほうが良い」と助言されました。

民生委員になったきっかけは、住職だった義父からの引き継ぎでした。当時は36歳で、話を持ち掛けられたとき、兄に相談したら、「断る理由がなければ、引き受けたほうが良い」と助言されました。

昭和55年に民生委員・児童委員(以下、「民生委員」)になってから38年が経ちました。民生委員の任期は3年ですので13期目を迎えています。あまり知られていませんが、民生委員には定年があり、75歳を超えたら、続けたくても民生委員にはなりません。

「36歳で民生委員・児童委員に」

「空家」の件数把握は進んでいます。行政では、管理の行き届かない家が舞い込んできます。例えば、社会福祉法人の役員や薬物乱用防止の指導員などを担っています。

「地域の変容を実感した」

民生委員になると、地域の役職が舞い込んできます。例えば、社会福祉法人の役員や薬物乱用防止の指導員などを担っています。

生活福祉資金貸付事業の紹介や地元社協の法外援助資金で対応したケースもありました。

長年にわたる活動の中で一番心に残っているのは、生活保護の母子世帯のケースです。生活保護を受けるためには、預貯金がないことが要件ですが、子どもの教育費を貯めていたのが判明して、ケースワーカーと母親との間に入って苦労した経験があります。

「心に残ったエピソード」

目下の悩みは、民生委員のなり手不足です。今年、民生委員制度創設100周年を迎えますが、民生委員が活動しやすい環境づくりや民生委員のハートをもったボランティアを養成していきたいですね。世の中では、不幸な事件も起きていますが、災害時も含めて「孤立防止」が大切です。民生委員にとって社協は重要なパートナーです。社協の先駆性を発揮して一緒にチャレンジしていきたいです。

「支え合い社会へのメッセージ」

昨年12月から兵庫県民生委員児童委員連合会会長として、県内約7700人の民生委員をとりまとめています。

本業のお寺も地域の拠点の一つで、これまでいろいろとやってきました。住民目線で地域に必要なものを考え、発信していくことが大切だと考えています。

まっています。空家を地域に密着したデイサービスやグループホームなどの地域の拠点に整備・活用できたら良いですね。



TOPICS

「ひきこもり」の理解を地域に広める

芦屋市では、3月2日に地域フォーラムを開催し、148名が参加しました。今回は、兵庫教育大学の岩井圭司教授による「ひきこもりの理解と地域でのかわり」と題した講演会を行いました。

講演では、ひきこもりの方々の特性や関わり方について具体的な説明があり、ひきこもりの方々に伝えるべきメッセージとして、「そのままのあなたでいいんだよ」「失敗しても、なんとかとりかえせるものだ」「苦しいことから逃げてもいいんだよ」といったものがあることを教えていただきました。

このフォーラムをきっかけとして、ひきこもりの方が居場所を見つけられる地域づくりを進めていきたいと思っています。



「助けて」と言えるご近所づきあいを目指して

南あわじ市では、3月12日「みはら福祉の集い」を開催。『助け上手さん・助けられ上手さんの秘訣とは?』と題した住民流福祉総合研究所所長の木原孝久氏による1部の講演では、約250名が参加。困ったときに「助けて」と言えば、助けてくれる関係性をご近所ですることが大切であり、その秘訣について共に学びました。

また、2部の『支え合いマップづくり講座』では約80名が参加。ひとり暮らし高齢者や認知症の方等、その方を取り巻くご近所の関係性を地図に描くことで課題や地域の力を見える化する手法を体験しました。つどいを通して、ご近所同士の助け合いの重要性や、地域における話し合いの場の必要性を改めて考える機会となりました。



「ストップ・ザ・無縁社会」 広がれ! 全県キャンペーン

<http://stop-muen.jp>

「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーンの最新情報や、支え合いのメッセージをお伝えします。

誰も排除されない地域を目指して

たつの市において、3月8日に「たつの市社協龍野支部福祉フェア」が開催され、市民や福祉関係者など337名の参加がありました。認知症の母と娘を追ったドキュメンタリー映画「徘徊～ママリン87歳の夏」を上映し、娘の酒井章子氏の講演では「誰も排除しない・排除されない地域」や「些細な一言が、大きな支えとなる」など、地域のつながりの大切さを確認する機会になりました。

また、県立龍野北高校の生徒と西はりまりハビリテーションセンター利用者による「ウエルフェアコレクション」では、利用者と話し合い、機能性や利便性に考慮して作製した衣服や小物が発表されたほか、ピアサポートすぎなの利用者による合唱など、幅広い市民が参画したイベントとなりました。



キャンペーンに、あなたも参加してみませんか?

キャンペーンに参加する3つの方法

キャンペーン推進団体として参画する

● キャンペーンの趣旨に賛同する団体で、特別な参加要件はありません(会費不要)。

協賛イベントを行う

● 各団体で実施される研修会やイベントを、「協賛事業」として開催してください。

協賛金に協力する

● このキャンペーンは、皆さまからの協賛金によって進められます。

参加に関するお申し出は事務局まで
ご連絡ください
(県社協TEL 078-242-4633)



タイムリーな
情報をお届け

福祉トピックス

民生委員制度創設100周年

民生委員制度は、1917年に岡山県で創設された済世顧問制度を源とし、翌年、大阪府で方面委員制度が創設されるなど、同様の制度が全国に普及し、今年で100周年を迎える。

兵庫県民生委員児童委員連合会では、100周年に先立ち「災害に備えた、防災・減災の取り組み」をテーマに実施された全県モニター調査の報告書の普及・啓発をはじめ、100周年記念大会の開催や100周年通史の発行など、様々な周年事業を実施する予定である。

兵庫県（神戸市含む）では、9,799名（平成28年12月1日現在）の民生委員・児童委員が活動しており、住民主体の地域福祉を推進する社会福祉協議会をはじめ、民生委員・児童委員を補佐する「民生・児童協力委員」や、福祉委員、関係機関などと協働して地域における多様な活動を展開している。

現在、国では、地域包括ケアシステムの構築や、「地域共生社会」を目指した地域力の強化といった施策が打ち出され、民生委員もそれらを担う重要なキーパーソンとしての期待が高まっている。民生委員は、これまでも地域における課題を把握し、それを関係機関につないだり、時には住民とともに支え合うなどの課題解決に取り組んできた。100周年を機にこれらの活動を継続し、次世代につなげていくことで、民生委員活動のさらなる発展と充実が期待される。

5月12日は
民生委員・児童委員の日



民生委員制度創設100周年のシンボルマーク

「ほっとかへんネット丹波」では、丹波市内の社会福祉法人同士が協働して地域の困り事の解決に向けた取り組みをしているよ。困り事の相談窓口や福祉のしごとの紹介をした冊子を作成したり、行政や関係機関と定期的に情報交換を行い、地域の福祉拠点としての役割を果たしているよ。



みんなでつくる ひょうごの福祉

地域で支え合い、地域を元気にする
取り組みを紹介します。

法人が協働する強みを発揮
地域の課題に取り組み

ほっとかへんネット丹波（丹波市社会福祉法人連絡協議会）は、平成27年度に市内17の社会福祉法人が集まって設立。行政や関係機関との意見交換会を通して地域課題の実態把握や対応に関する協議を行い、住民が抱える生活・福祉課題の解決に向けた地域公益活動を展開している。

昨年度は、災害時の福祉避難所研修の開催に加えて、福祉施設の紹介や地域の相談窓口を案内した冊子を発行し、住民の「ふだんのくらしのしあわせ」を支えるという意気込みを表した。「この冊子を通して、福祉が日々の暮らしに近い距離にあることを感じてほしい。そして、少しでも福祉の仕事に興味を持つきっかけになってほしい」と澤村安田里会長は話す。

また、福祉人材の確保といった福祉業界で喫緊の課題にも、複数法人が協働して「福祉の就職フェア」を開催し、取り組みの充実につなげている。「個々の社会福祉法人

「ふだんのくらしのしあわせ」 を支える

～ほっとかへんネット丹波の取り組み～

では解決が難しい共通の課題は、ほっとかへんネット丹波での連携によりアプローチしていくことが重要」と澤村会長は協働の意義について語る。

このように、福祉制度の狭間の問題をはじめ、家族や住民同士のつながりの希薄化を背景とする地域の課題に対して、社会福祉法人が公益性を発揮して主体的に取り組む意義は大きい。

地域住民の駆け込み寺

今年度からは、丹波市との協働で「よろずおせっかい相談所」を開設し、地域の総合相談体制づくりを進めていく。

澤村会長は、「地域の総合相談窓



地域の総合相談窓口（よろずおせっかい相談所）を紹介



災害時の対応に向けて、情報を共有

口を社会福祉法人が担うことにより、地域の駆け込み寺としての役割を発揮したい。住民の生活課題にしっかりとアプローチしながら、一つでも多くの困り事を解決し、安心して暮らせる地域づくりの一翼を担いたい」と今後の展開を見据える。

ほっとかへんネット丹波の活動を基盤に、社会福祉法人が地域の駆け込み寺として、住民の暮らしを支える存在を目指していく。

取材を終えて

複数法人でのネットワークを生かした地域公益活動を展開するほっとかへんネット丹波。「よろずおせっかい相談所」をはじめ、住民の日々の暮らしに寄り添う活動の今後の展開に注目です。

丹波市社会福祉法人連絡協議会事務局：
（社福）みつみ福祉会
丹波市春日町野村65-1
TEL 0795-75-0314

地域福祉ホットニュース

県内の新しい取り組みや
イチオシ情報を紹介します。



たつの市社協

有償の新たな“お互い様の仕組み”を創設

平成29年度から住民同士で生活上のちょっとした困り事を助け合う「暮らし支え合い事業」をスタート。一人暮らし高齢者や高齢者夫婦のほか、障害者、産前産後の方を対象とし、買い出しや庭の草むしり、軽易な掃除などを行う。具体的には、「依頼者」が社協のコーディネートを通じて、あらかじめ登録された「サポーター」に活動を依頼し、10分100円を支払う。今後、サポーター登録希望者を対象に研修会を開催し、参加と協力によるお互い様の仕組みを広げていく。



加古川市社協

見守り・支え合い活動に役立つDVDが完成

小地域福祉活動モデル地区で実践している住民同士の見守り活動や「ささえあい会議」の様子を撮影した「見守り・ささえあい活動ネットワークDVD」を制作。社協と地元ケーブルテレビの協働により制作し、プロのリポートや撮影・編集技術で、見やすい動画に仕上がりに、内容が分かりやすいと好評だ。同時に、第3期地域福祉推進計画の内容に基づき、市社協の活動内容を紹介するDVDも制作しており、社協活動のPRも行っている。

今年度は、DVDを各町内会に無料で貸し出し、小地域福祉活動のいっそうの充実を図る。





開会式では、6年前の東日本大震災で被害に遭われた方々に黙とうがさげられた後、ビンゴゲームや昼食の振る舞いもあり、子どもたちはおもちゃや乗り物で楽しい一日を過ごした。

3月11日、東条湖おもちゃ王国では、第16回「おもちゃ王国の休日」を開催。県内の児童養護施設入所児童や、東日本大震災による兵庫県への避難児童ら約770名が招待された。このチャリティーイベントは、子どもたちが遊びや触れ合いを通じて、豊かな人間関係を結ぶ機会になることを願い、同王国が社会貢献活動の一環として実施している。

おもちゃ王国に770名招待

寄付・寄贈のお礼



伊丹乳児院の北村施設長は、「子どもたちを取り巻く環境は大変厳しくなってきました。我々に求められる責任もより一層重いものとなっている。いただいたご厚意に込められた皆さまのお気持ちをしっかりと受け止め、これからも努力を重ねていきます」と語った。

3月22日に贈呈式が行われ、脱臭機2台、掃除機3台、乾燥機2台、ピアノ1台、知育玩具5個、絵本4冊が贈られた。

三菱電機(株)コミュニケーション・ネットワーク製作所(所在地：尼崎市)の社員と会社の共同による「三菱電機ソーシャルツ基金」から物品寄贈の申し出があり、本会が寄贈先の選定に協力。同基金により伊丹乳児院に決定した。

企業の社会貢献で乳児院に寄贈



今回の贈呈先は、「ひめじ高次脳機能障害サポート」「わ・はは」の会「芦屋市手をつなぐ育成会」「わかみや会(若年性認知症者交流会)」「KC福祉研究会」の5団体に決定した。いただいた寄付金は、各団体における活動の充実のため有効に活用される。

3月24日、親切会関西支部から県内で活動する当事者団体等に対し、寄付金が贈呈された。寄付金は、親切会会員の歳末助け合い募金等を財源とするもので、毎年、継続して取り組んでいる。

当事者団体に寄付金を贈呈



両社では今年度、共同キャンペーンの売上の一部で車椅子を購入し、全国各地の社協へ計275台を寄贈している。

4月10日、県福祉センターにおいて、(株)ツルハホールディングスおよびクラシエホールディングス(株)から車椅子5台が寄贈された。平成24年度から累計25台となる。

企業のキャンペーンで車椅子を寄贈



若年性認知症の本人、家族、友人、支援者などで構成する「若年性認知症とともに歩む ひょうごの会」が、当事者の声や活動の中から見えてきた課題をまとめた冊子「いまを生きる いまを歩くPart.2」を発行した。若年性認知症については、まだ社会の理解や、支援が十分ではない。また、高齢者でないため、「就労」や「外出(車の運転)」など大きな課題となっているものもある。本冊子には、最も活躍できるであろう年代に仕事を失ってしまった苦しみや、重要な移動手段である運転が困難となった状況などについて、多くの当事者の声が掲載されている。

若年性認知症当事者の「声・思い」をまとめた冊子を発行

平成29年度 兵庫県介護支援専門員実務研修受講試験のお知らせ

平成29年度の試験日が下記のとおり決定しました。5月15日から、県内各市区町の介護保険担当窓口等で「受験の手引」の配布を開始します。受験対象となる資格や実務経験等の受験要件については、同手引でご確認ください。なお、平成30年度から受験要件の変更が予定されています。詳細については、平成30年度の試験実施要綱で明らかになる見込みです。

試験日 平成29年10月8日(日)午前10時試験開始

会場(予定) 神戸大学 他(神戸市内)

申込書(第20回受験の手引)の配布

配布期間・申し込み受付期間 平成29年5月15日(月)~6月16日(金)

配布場所 県内各市区町の介護保険担当窓口、神戸県民センター県民交流室県民課、各県民局(阪神南、中播磨は県民センター)健康福祉事務所、但馬長寿の郷、兵庫県介護保険課、兵庫県社会福祉研修所

受付方法 兵庫県社会福祉研修所宛て 簡易書留による郵送受付(持参不可)

受験料 7,700円

本人や側で支えるパートナーの切実な想いをぜひ一度、手にとって見ていただきたい。
冊子に関するお問い合わせは、ひょうご若年性認知症生活支援相談センター【TEL 078-242-0601】まで。

ひょうごボランタリープラザ NPO法人等向け助成事業の募集

県内のボランタリー活動を支援するNPO等の助成事業です。

募集事業

- ①地域づくり活動NPO事業助成(助成額:上限50万円)**
NPO法人等が地縁団体等と連携し、その機動力や専門性を活かした地域づくり等の取り組みに助成します。「連携を重視する事業」「先導的・先駆的取組を重視する事業」それぞれ1件ずつ(計2件まで)可能
- ②中間支援活動助成(助成額:上限100万円)**
地域のNPO等の基本的な活動を支援する取り組みや課題解決に向けた企画立案事業に助成します。

募集期間

平成29年5月31日(水)必着

募集方法

申請書に記載の上、必要書類を添えて提出(郵送可)
※詳細・様式は当プラザのホームページ「プラザからのお知らせ」に掲載しています。
(<http://hyogo-vplaza.jp/>)

問い合わせ

ひょうごボランタリープラザ
TEL 078-360-8845

助成金情報

福祉活動等に対する助成金の情報です。詳細は、それぞれの問い合わせ先にご確認ください。

公益社団法人24時間テレビチャリティー委員会

第40回「24時間テレビ」福祉車両寄贈贈呈車

①リフト付きバス、スロープ付き自動車、福祉サポート車:社会福祉法人(社協以外)、社会福祉協議会、NPO法人、地方公共団体、医療法人、(一般・公益)社団法人・財団法人、学校法人、任意団体(非法人)、ボランティア団体など

②訪問入浴車:①のうち介護保険制度の入浴事業認定団体 ③電動車いす:①の団体または身体障害者認定、要支援1・2、要介護1認定を受けている人

平成29年5月19日(金)必着

読売テレビ「24時間テレビ」事務局 TEL 06-6947-2844

URL http://www.24hourstv.or.jp/

公益財団法人大同生命厚生事業団

①ビジネスパーソンボランティア活動助成

対象 社会福祉の推進に役立つボランティア活動を行っているか、または行おうとするビジネスパーソン(会社員、団体職員、公務員、経営者・個人事業主)が80%以上のグループ(NPO法人を含む) ※過去5年以内に本財団の助成を受けたグループは除く

対象活動 高齢者福祉または障害者福祉に関するボランティア活動、子ども(高校生まで)の健全な心を育てる交流ボランティア活動

②シニアボランティア活動助成

対象 社会福祉の推進に役立つボランティア活動を行っているか、または行おうとするシニア(60歳以上)が80%以上のグループ(NPO法人を含む) ※過去5年以内に本財団の助成を受けたグループは除く

対象活動 高齢者福祉または障害者福祉に関するボランティア活動、子ども(高校生まで)の健全な心を育てる交流ボランティア活動

③地域保健福祉研究助成

対象 保健所・衛生研究所等衛生関係機関に所属する職員、都道府県市町村の衛生および福祉関係職員、保健・医療・福祉の実務従事者 ※前年度に本財団の助成を受けた人(共同研究は除く)は除く

研究課題 地域保健および福祉に関する研究、在

宅・施設の医療、福祉・介護に関する研究、その他住民の健康増進に役立つ研究

助成額 ①②1件あたり原則10万円(①②合わせて総額800万円以内)③1件あたり原則30万円(総額1,200万円以内)

締切り 平成29年5月25日(木)消印有効

公益財団法人大同生命厚生事業団

TEL 06-6447-7101

URL http://www.daido-life-welfare.or.jp/

公益財団法人日本生命財団 2017年度ニッセイ財団 高齢社会助成「地域福祉チャレンジ活動助成」

地域包括ケアシステムの展開につながる4つのテーマのいずれかに該当する活動に助成します。①認知症(若年性認知症を含む)の人の地域での生活を支える活動②サービスの創出に向けた活動③インフォーマルサービスとフォーマルサービスの連携による地域づくりに貢献する活動④医療・介護・福祉・保健の連携を実現するための活動

対象 上記のテーマにチャレンジする意欲があり、他の団体・機関、住民組織等と協働で活動する団体(法人格の有無は不問)

助成額 1件2年間上限400万円 ※1年間上限200万円(件数2~3件)

締切り 平成29年5月31日(水)消印有効

公益財団法人日本生命財団

TEL 06-6204-4013

URL http://www.nihonseimei-zaidan.or.jp/

公益財団法人コープともしびボランティア振興財団

第1回「やさしさにありがとう

ひょうごプロジェクト」助成

兵庫県に拠点を置いている企業7社と共に社会的課題を解決する団体を支援します。

対象 兵庫県内で公益的な活動を行うNPO法人、NPO法人に準ずる団体(ボランティアグループ、一般社団法人)

助成額 1件あたり上限50万円(総額100万円の予定)

締切り 平成29年6月8日(木)

公益財団法人コープともしびボランティア振興財団

TEL 078-412-3930

URL http://www.tomoshi-bi-found.or.jp/

募集

兵庫県健康福祉部障害福祉局障害者支援課

平成29年度「ひょうごユニバーサル社会づくり賞」

対象 ユニバーサル社会づくりの見本となる

率先した活動を行っており、兵庫県内に在住または活動拠点を置く個人、団体、企業 ※自薦・他薦を問いません

締切り 平成29年5月26日(金)

兵庫県健康福祉部障害福祉局障害者支援課

TEL 078-362-4379

URL http://web.pref.hyogo.lg.jp/kf10/universal/shakaidukuri.html

行事予定

5月	1日	保育所新任保育士研修(全2コース)◆県社会福祉研修所
	2日	老人福祉施設新任職員研修(全3コース)◆県社会福祉研修所
	8日	障害福祉施設新任職員研修(全2コース)◆県社会福祉研修所
	9日	児童福祉施設新任職員研修◆県社会福祉研修所
	11日~	介護支援専門員実務研修(後期)◆県社会福祉研修所ほか
	12日	県経営協定会・記念講演会◆県福祉センター
	15日	チーム・マネジメントリーダー研修Aコース(全2コース)◆県社会福祉研修所
	17日	生活福祉資金新任担当職員研修会◆県福祉センター 県地域包括・在宅介護支援センター協議会新任研修◆県福祉センター
	22日	県社協監事監査◆県福祉センター
	29日	福祉行政機関新任職員研修◆県社会福祉研修所
6月	6日	県社協第248回理事会◆県福祉センター
	16日	生活保護新任ケースワーカー研修◆県社会福祉研修所
	19日	県ホームヘルプ事業者協議会総会◆県福祉センター
	23日	県社協第192回評議員会(定時評議員会)・第249回理事会◆県福祉センター
	24日	第1回福祉の就職総合フェア in HYOGO ◆神戸国際展示場3号館

URテナントは「子育て・高齢者支援事業」を応援しています!

子育て支援事業者への賃貸料優遇制度 賃貸料最大50%OFF

高齢者支援事業者への賃貸料優遇制度 賃貸料最大20%OFF

※申込後の審査により、賃貸料が割引になる事業かどうか判断させていただきます。
※既存店舗との競合業種は、団地によっては受付できない場合があります。

メリットいっぱいUR

- merit-2 権利金・礼金・手数料不要 初期費用が安い!
- merit-3 開店までの準備期間も安心 工事前の賃貸料無料
- merit-4 面倒な手続きいらず 保証人不要!
- merit-5 大型団地内だから 潜在顧客が豊富
- merit-6 最初の6ヶ月間 賃貸料無料

URテナント

街に、ルネッサンス

UR都市機構

独立行政法人 都市再生機構
西日本支社 住宅経営部 経営チーム
〒536-8550 大阪府城東区森之宮1-6-85
TEL.06-6969-9044

URテナント 関西 検索